

緑のセンターだより



No.158

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel : 0166-65-5553 Fax : 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 28 年 2 月 1 日



講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「果樹の剪定と栽培管理」-リンゴ、サクランボ、プラム-

とき 平成 28 年 2 月 21 日（日）
午後 1：30～3：30 定員 50 名

講師 ふじくらすも果樹園
代表 増茂 聡さん



2年ぶりの旭川です
お会いできるのを楽し
みにしております！

★特別講座★

「植物の病害虫と園芸薬品」
NHK 趣味の園芸” 草間祐輔氏
による大人気の講習会です
日時：平成 28 年 2 月 25 日（木）
午前 10 時～12 時 定員 50 名



次年度の講習会予定

（詳細は次号に記載予定）

「楽しい「いちごづくり…」

「こどもの講座」葉・木の実で動物を作ろう

「フラワーアレンジメント」

冬の自然観察会

「カンジキで森を歩こう」

●3月13日（日）午前9時～12時

定員 10 名 小学生～（小学生は保護者要）
スノーシューで神楽岡公園を歩き、冬芽の
観察で樹木を知り、自然を楽しみましょう

講師：北邦野草園研究員



☆新年度も楽しい企画がいっぱいです。お楽しみに！

展示会のご案内

（初日は午後から、最終日 4 時まで）

「神楽岡公園の四季写真展」

2月1日～3月27日

リス？



【休館日のご案内】

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）
11月～3月は毎週月曜日が休館日です。（ " ）



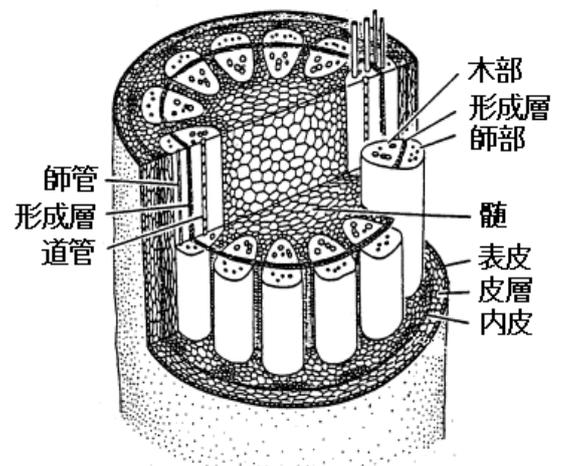
〈園芸の基礎知識〉 植物の茎の内部構造と働き

～茎の断面と構造(双子葉植物)～

茎は植物の地上部にあり、葉をつけて植物体を支える器官です。茎の中には水分や養分の通路となる維管束という組織があり、根から葉までつながっています。地上部の茎を「地上茎」、地下にある茎を「地下茎」といいます。また、つる性植物のつるやブドウの巻きひげなども茎が変形したものです。

■**維管束**:水分の通路となる木部と光合成でつくられた産物の通路になる師部からなり、双子葉植物や裸子植物ではその間に形成層があります。

■**形成層**:茎が肥大するための分裂組織で、通常は茎の全周に環状についています。維管束の中に存在するものを維管束内形成層、維管束と維管束の間に存在するものを維管束間形成層といいます。例えば、単子葉植物であるイネには形成層がないので、草丈が高くなってもさほど茎が太くならないのはこのためです。木本植物では木部が発達し、肥大生長して堅くなり幹となります。



双子葉植物の茎の構造

(参考資料:「北国のガーデニング」札幌商工会議所)

緑の相談 Q&A (32)

ハイビスカスの冬越しの方法を教えてください？

ハイビスカスは熱帯花木のため生育適温は25～30℃で大輪種ほど高い温度を必要とします。四季咲き性は最低温度が13～15℃以上あれば生育・開花を続けます。花つきの条件は「高温」と「日照」です。外気温が15℃以上になる6月上旬から戸外に出し、9月中旬ごろに室内に入れ、ガラス越しの日当たりのよい暖かい窓辺で育てます。適切な温度管理のもとでは花が終わっても、新芽が伸びていれば一時的に休んではまた開花し、断続的に花をつけるので、日光と温度があれば一年中花を楽しめます。

夏の間には伸びた枝はどの枝にもよく日光が当たるように切り詰めます。日当たりのよい窓際などに置き、夜間はできるだけ暖かい場所で管理します。

水は、鉢の表面が乾いてから軽く与え、ときどき葉の表裏や幹に霧をかけてやります。

夏季間は土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

春まで肥料は与えないのが原則ですが、室温を高くし、生育を続けている場合は液肥を1か月に1回程度与えます。春以降の生育期は肥料が切れると葉が黄ばみ、つぼみが落ちやすくなるので1か月に1回の置き肥(固形の油かす、骨粉など)とリン酸、カリ分の多い液肥を1週間ごとに与えます。

春になると植え替えをして再び美しい花を楽しみましょう。

(参考資料:「北で育てる魅力の花」北海道新聞社)



植物の病害虫

その29 「キンケクチフトゾウムシ」

1 加害される植物

北海道で寄生加害を認めた植物は、シクラメン、ベゴニア、インパチェンス、パンジー、キンギョソウ、ホトギス、ミヤマオダマキ、レンゲツツジ、イチイ、エゾヤマザクラ、アジサイ、アカエゾマツ、食用ユリ、イチゴでも被害が確認されています。外国ではブドウが枯死した例もあります。



食害葉



キンケクチフトゾウムシ

2 被害状況

成虫は葉の縁を半月状に食害するほか、葉柄を加害して切断することもあります。幼虫は根および球根を食害します。被害症状は植物によって異なるが、シクラメンでは葉がしだいに黄化し、被害が進むと株全体が簡単に引き抜ける状態となり、植物は衰弱して枯死します。

3 経過習性

北海道では1993年に初めて本種の発生が札幌および愛別町の施設栽培のシクラメン(シクラメンの鉢物の根について移動したらしい)で、また、札幌市、岩見沢市および愛別町では露地栽培の花き類で確認されました。本種の野外での発生は、春と秋に幼虫、夏に成虫の比率が高くなります。新成虫の出現は6月～7月頃、成虫は20℃で産卵します。越冬態は成虫と幼虫ですが、主に幼虫で越冬します。

4 形態

「成虫」は体長8～13 mmで、体全体は、黒～黒褐色、口吻は太くて短いです。前胸背はほぼ一様にいぼ状です。翅鞘には条線があり、黒褐色の細かい毛の他に、金色の太い斑点が散在しています。これが「キンケ」の由来となっています。活動中の成虫は土中に潜ったりするので体表には泥が付き、金毛は明瞭には見えないことが多い。

「卵」は直径0.5 mmの球形。産卵直後は白色ですが、のちに茶色となります。

「幼虫」は老熟幼虫の体長は約10 mmで無脚です。頭部は淡褐色、体は乳白色で金色の短毛があります。

5 防除方法

幼虫に対しては、カルボスルファン粒剤(商品名 ガゼット粒剤…イチイ、シクラメン、プリムラ、ベゴニアに登録があります)の株元処理、成虫には、DMTP乳剤(商品名 スプラサイド乳剤…プリムラ、イチイ、シクラメンに登録があります)を茎葉散布します。

クンシランを豪華に楽しむ

ヒガンバナ科 クリビア属 南アフリカ原産 多年草

クンシランには、葉幅が広く長めの高性広葉系や、葉に白や淡黄色の斑が縞・虎・胡麻斑模様に入るもの、花もオレンジ・黄・緑色などの変化を楽しむことができることから古くから親しまれてきました。近年は住宅事情もあって、大型のものよりも肉厚で幅広の短い葉・短い花茎のダルマ系が好まれているようです。

漢字では「君子蘭」と書きますが「ラン」の仲間ではなく、ヒガンバナ科の植物です。豪華な花を楽しむためには、晩秋から初冬にかけて 10℃前後の低温で2か月管理(低温処理)すると花茎を伸ばし、開花させることができます。



＜豪華に咲かせる今後の管理＞

- ①2月は生育期ではないので肥料は与えない。水やりも鉢の表土が乾いたら与える程度だが、葉の間に花茎が見えたら 15～20℃の部屋に置き、水も十分与えて花茎を伸ばす。この時、夜間も照明下の管理では茎が伸長しないで株元で開花してしまうので、夜間照明のない所で管理する。
- ②花のあとに花茎をつけたままにしておくで種ができて株が弱るので、数輪が枯れたところを見計らって花茎を付け根から切り落とす(茎もとに切れ目を入れ、手前に折るとパキッと簡単に折り取れる)。
- ③肥料は新しい葉が出始めてから。生育期間中に化成肥料の置き肥を2か月に一回与える。
- ④晩霜の心配がなくなった春から秋は木陰などの戸外で管理する。過湿と直射日光には注意する。翌年に花を咲かすためには晩秋の低温に合わせることが大切。晩秋の霜には弱いので夜は玄関などに取り込むなどして、低温処理期間を確保する(室内管理株の場合も同様に低温処理が必要)。
- ⑤植え替えは2年に一度、赤玉土などを中心とした水はけの良い用土で行う。株分けも植え替え同様に暖かくなった5月に行い、株分けの1週間前から水やりを控えて行くと折れにくくなる。

展示室の植物 (65)

ウツボカズラ (和名:ヒョウタンウツボカズラ 学名: *Nepenthes alata*)

ウツボカズラ科 ウツボカズラ属

ウツボカズラの仲間は、東南アジアや北オーストラリア等の熱帯地域に分布している食虫植物です。その種によっては大きさや形に違いがあるものの、一様に持つ「壺」状のものは葉が変形したもので内側がツルツルして滑ることから、ここに落ち込んだ昆虫は逃げ出せず、しだいに消化・吸収されていく構造になっています。

原産地のボルネオ島の先住民はこの壺を利用して、米を炊いて食べたり、また、抗菌作用があって腐敗しにくいことからお弁当箱替わりに米や肉などを入れて携帯食として持ち歩いていたそうです。じつに興味深く不思議な植物です。

栽培は、熱帯地帯の植物らしく高温・多湿が大好きで乾燥と低温が苦手。日当たりがよい場所を好むものの強い日射しは苦手です。冬越しは最低温度が 15℃以上確保できる所であれば大丈夫です。

